

# U.S. Indicators

発表日:2023年3月13日(月)

## 米国 2月雇用統計は労働市場の一段の逼迫を示さず

～労働市場は緩やかに減速しているが堅調～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:050-5474-7493)

23年2月の非農業部門雇用者数(事業所調査)は、前月差+31.1万人(1月同+50.4万人)と市場予想中央値(ブルームバーグ集計)の前月差+22.5万人(筆者予想同+19.8万人)を上回った(12、1月合計3.4万人下方修正)。一方、失業率は3.6%と前月の3.4%から0.2%p上昇し、市場予想中央値(ブルームバーグ集計)の3.4%(筆者予想3.5%)を上回ったほか、平均時給が前月比+0.2%(市場予想中央値+0.3%)、前年同月比+4.6%(市場予想中央値+4.7%)と市場予想中央値を下回った。さらに、労働投入量が前月比▲0.1%と減少、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で+1.9%(1月同+1.9%)にとどまった。

2月の雇用統計は、非農業部門雇用者数が予想を上回った一方、失業率が市場予想に反して上昇したほか、平均時給が予想を下回るなど、1月の労働市場の再逼迫に持続性がなかったことを示した。FF金利先物が示す3月21、22日のFOMCでの25bpの利上げの可能性が59.8%と50bpの利上げの可能性の40.2%を上回った。

### 米国雇用統計

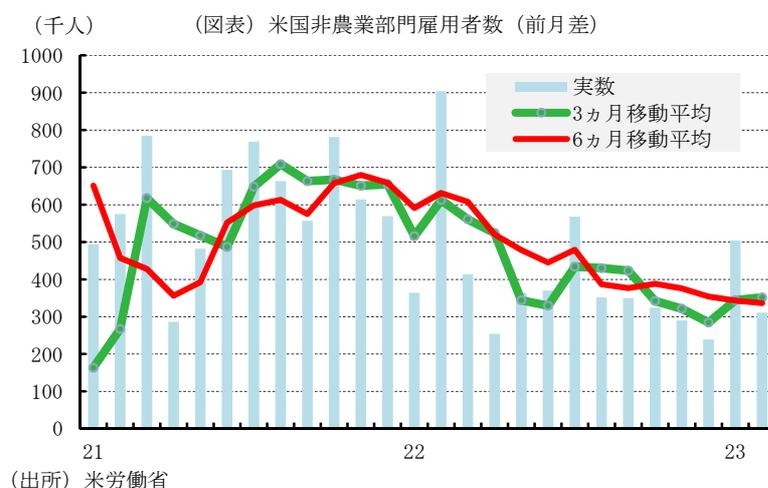
	失業率	非農業部門雇用者数							平均時給		労働時間	労働投入量		
		全体	製造業	建設業	サービス関連業			政府	前月比	前年比		前月比	年率※	
		前月差	前月差	前月差	全体	小売業	狭義サービス							前月差
19.4Q	3.6	149	▲7	▲8	172	6	111	26	0.8	3.2	34.3	0.0	0.1	
20.1Q	3.8	▲273	▲27	4	▲244	▲38	▲268	39	1.0	3.2	34.3	▲0.1	▲0.2	
20.2Q	13.0	▲4441	▲248	▲123	▲4038	▲330	▲2914	▲478	3.9	6.6	34.5	▲12.4	▲41.2	
20.3Q	8.8	1380	41	29	1317	186	858	171	▲0.8	4.8	34.7	6.5	28.6	
20.4Q	6.8	238	33	33	173	40	126	▲83	0.8	4.9	34.8	2.1	8.6	
四 半 期	21.1Q	6.2	618	24	13	582	39	402	68	1.0	4.9	34.8	0.9	3.6
	21.2Q	5.9	487	2	2	481	8	379	41	1.2	2.3	34.9	1.2	5.0
	21.3Q	5.1	663	54	24	584	16	437	25	1.4	4.5	34.8	1.3	5.2
	21.4Q	4.2	655	49	41	560	20	430	▲6	1.5	5.3	34.8	1.6	6.5
	22.1Q	3.8	561	44	33	481	59	317	6	1.4	5.6	34.7	1.0	4.1
	22.2Q	3.6	329	34	19	270	▲25	219	12	1.1	5.6	34.6	0.7	2.8
	22.3Q	3.5	423	33	16	373	12	284	42	1.2	5.3	34.6	0.8	3.3
	22.4Q	3.6	284	19	21	240	▲8	203	31	1.1	4.9	34.5	0.5	1.9
月 次	2205	3.6	364	21	38	303	▲51	263	21	0.4	5.5	34.6	0.3	3.6
	2206	3.6	370	30	13	320	14	292	▲12	0.4	5.4	34.6	0.4	2.8
	2207	3.5	568	41	24	497	9	362	75	0.5	5.4	34.6	0.4	2.5
	2208	3.7	352	31	8	315	37	200	46	0.3	5.4	34.5	▲0.1	2.7
	2209	3.5	350	26	16	306	▲11	291	6	0.3	5.1	34.6	0.6	3.3
	2210	3.7	324	37	17	267	▲6	193	25	0.4	4.9	34.6	0.2	3.0
	2211	3.6	290	14	19	249	▲46	260	62	0.4	5.0	34.5	▲0.1	3.1
	2212	3.5	239	6	26	203	27	156	7	0.4	4.8	34.4	▲0.1	1.9
	2301	3.4	504	13	35	453	34	273	118	0.3	4.4	34.6	0.9	1.9
	2302	3.6	311	▲4	24	291	50	208	46	0.2	4.6	34.5	▲0.1	1.9

2月の非農業部門雇用者数（事業所調査）は、前月差+31.1万人（1月同+50.4万人）と大幅な増加を続けたものの、減速した。政府部門が前月差+4.6万人（1月同+11.8万人）と鈍化したほか、民間部門が前月差+26.5千人（1月同+38.6万人：改定前同+44.3万人）と減速した。

民間では、新型コロナウイルスのワクチン接種進展、感染拡大の安定、暖冬等による需要の強まりで、飲食店が前月差+6.99万人と最大の増加となったほか、芸術・エンターテインメント・余暇（前月差+2.14万人）、宿泊（同+1.44万人）、教育サービス（同+1.14万人）が増加した。また、需要が強く人手不足の続く医療・社会援助が前月差+6.28万人と高い伸びを続けたうえ、建設業が同+2.4万人と需要が落ち込む中でも人手不足により増加を続けた。さらに、小売業が百貨店やウェアハウスクラブ、スーパーセンター、その他の一般小売業者などの牽引で前月差+5.01万人と大幅に増加した。一方、景気の減速を受け専門・技術サービス（前月差+1.95万人）、卸売業（同+1.11万人）、派遣業（同+0.68万人）が鈍化した。その他サービス（同+0.9万人）、不動産・リース（同+0.41万人）は小幅増加にとどまった。

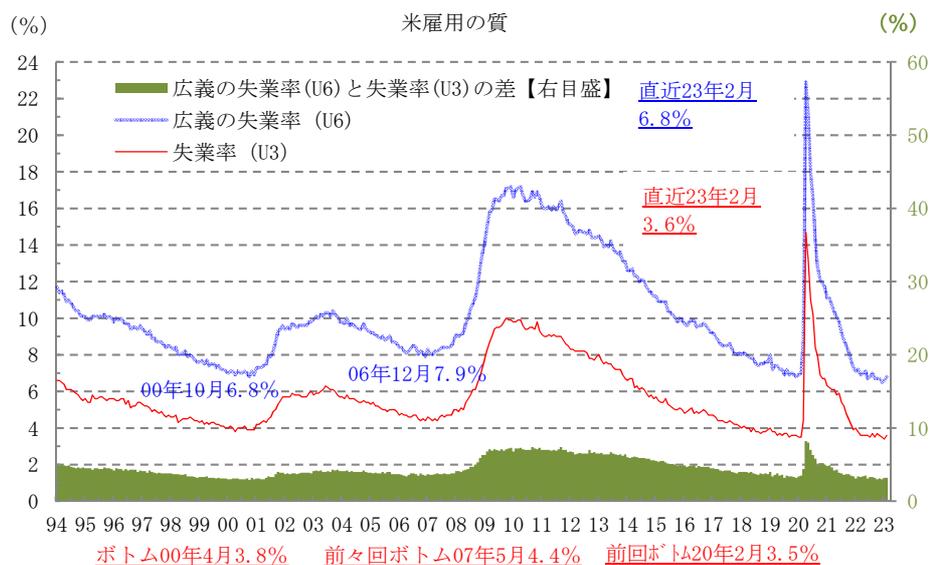
レイオフの増加している情報産業が前月差▲2.5万人と減少幅を拡大したほか、輸送・倉庫（同▲2.15万人）、金融・保険（同▲1.02万人）、製造業（同▲0.4万人）が減少した。

月次での変動を均して基調をみると、非農業部門雇用者数は1月の上振れの影響により3カ月移動平均で前月差+35.1万人（前月同+34.4万人）と加速したが、6カ月移動平均で同+33.6万人（前月同+34.9）と減速傾向を辿っている。ただし、どちらの数値も堅調な増加ペースの持続を示している。



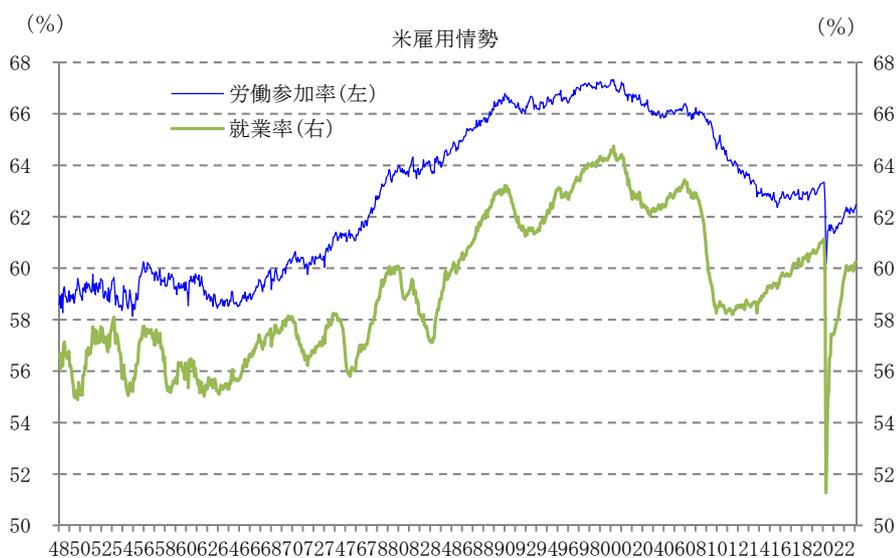
2月の失業率（U3、家計調査）は、3.6%（前月3.4%）と上昇したが、自然失業率と推測される4.0%を下回る低い水準での推移を続けている。労働参加率は62.5%（前月62.4%）と上昇したが依然として低い水準にとどまっており、労働市場逼迫の一因となっている。

また、“現在は職探しをしていないが過去1年間に求職活動を行った人”と“正規雇用を探しているがパートタイムで働いている人”も失業者を含む広義の失業率（U6）は、6.8%（前月6.6%）と上昇したが依然低い水準にとどまっている。さらに、自発的失業率は15.0%（1月15.5%）と低下したが高い水準にとどまっており、依然労働環境が良好なことを示している。



(出所) 米労働省

(注) U6：通常の失業者に加えて、正規雇用を探しているがパートタイムで働いている人や過去1年間に求職活動を行った人を失業者としてカウント



労働投入量は、前月比▲0.1%（1月+0.9%）と縮小したほか、3カ月移動平均・3カ月前対比年率で+1.9%（1月同+1.9%：改定前の+2.4%から下方修正）と前月と同率となり、労働需要が鈍化していることが示された。



このような中、平均時給は前月比で+0.2%（前月+0.3%）と2カ月連続で減速した。前年比では+4.6%（1月+4.4%）と加速したものの、基調としては鈍化傾向を辿っている。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。